

◀「報告書詳細版」は巻末の付録USBメモリに収録しています▶

第18部

実ノードを用いた大規模なインターネットシミュレーション環境の構築(概要版)

太田 悟史、高野 祐輝、安田 真悟

ここでは、実ノードを用いた大規模なインターネットシミュレーション環境の構築の研究開発を行っているDeep Space One WGおよびNerdbox Freks WGの活動報告を行う。Deep Space One WGは実環境向けのハードウェアおよびソフトウェアを利用した大規模な実験用環境の構築・運用に関する研究に取り組み、Nerdbox Freks WGでは大規模実験環境のユーザ視点から利用方法やノウハウの共有、実験例、新たな利用例の考案、実験・開発ワークショップを行っている。

本年度は次の項目を実施した。詳細は、wide-memo.ds1-nerdbox-freks-cabin-report2016-00を参照して頂きたい。

・各種イベントの実施

- 3月 WIDE合宿でのCABINによるデモンストレーション
- 9月 WIDE合宿でのCABINによるオペレーション大会

コンピュータやネットワークへのセキュリティ対策の重要性が高まるなかで、高度化、複雑化するサイバー攻撃についてはサイバー演習によるセキュリティ人材育成が急務となっている。今後より多くの人材が望まれており、それに応じて多くのサイバー演習の実施が必要となっている。その一方で、サイバー演習環境の学習効果をより向上させるために、リアリティへの対応が必要である。しかしその一方で高いリアリティは構築コストが高くなる。そこでサイバー演習環境の構築効率の向上と演習環境のリアリティを提供する、サイバー演習統合管理システム“CABIN”を提案した。春と秋のWIDE合宿において、CABINのPoCモデルを用いたデモンストレーションとオペレーション大会を開催した。春の合宿では個人用の演習環境を提供し、秋のオペレーション大会ではチームの競技環境として利用した。

春のデモンストレーションと秋のオペレーション大会に快く参加していただいた皆様に、この場を借りて感謝を述べたい。

先端技術を踏まえたテストベッド環境についての議論や情報共有を行い、来年度もDeep Space One WGとNerdbox Freks WGは、柔軟な実験環境を構築するためのツール群の研究開発とともに、ナレッジベースの整備および、より現実的な実験を行うための実験環境構築手法の研究開発も平行して行っていく。